

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32619

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02536

研究課題名（和文）全員活躍社会の実現を目指すキャリア教育の設計に向けての実証的研究

研究課題名（英文）Empirical research for the design of career education for the purpose of achieving "A society in which all members can play an active role"

研究代表者

谷田川 ルミ（Yatagawa, Rumi）

芝浦工業大学・工学部・教授

研究者番号：20624266

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、全員活躍社会の実現を目指し、非都市部である離島地域の中学校における地域社会と連携したキャリア教育の取組に参加し、「総合的な学習の時間」向けに「地域課題解決型キャリア教育」の学習プログラム案を作成し、実際に授業で試行した。教育効果の測定として、3年間6時点において、知識の定着、地域に対する意識の変化、地域と自分自身のキャリアに関する意識の変化を測定したところ、それぞれの項目において、ポジティブな回答が増加し、3年間を通じて定着する傾向が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては、第一に、中学校の教育現場と研究者とが協働してキャリア教育プログラムを開発したことにより、キャリア理論に偏ることなく、教育現場と地域のニーズを取り入れた、実践的な教育プログラムを構築できた点である。第二に、教育効果の測定を適宜行うことによって、生徒たちの変化を実証的に把握し、プログラムが抱える課題の発見、改善を行った点である。キャリア教育の効果については懐疑的な目も向けられている。真に効果のある教育プログラムを構築することは、少子高齢化社会において持続可能な社会の担い手としての人材育成を可能にすることになり、全員活躍することが可能な社会の実現に寄与することができる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we participated in a career education initiative in cooperation with local communities at a junior high school in a non-urban (remote island) area, created a learning program plan for integrated studies in "career education based on solving local problems," and actually tried it out in the classroom, with the aim of realizing an active society for all. The results showed an increase in positive responses in each of the six areas, and a trend toward retention throughout the three-year period.

研究分野：教育社会学

キーワード：キャリア教育 ライフコース キャリア教育プログラム開発 教育評価

1. 研究開始当初の背景

本研究では若年女性の就業継続回避傾向の高まりといった現象がなぜキャリア教育を受けてきたはずの世代に起こっているのかといった問題意識を起点に、彼らの将来意識形成メカニズムについて、彼らの受けてきたキャリア教育の実態との関連を中心に調査・分析を行う。調査方法は質問紙調査とインタビュー調査の双方からアプローチする。これらの調査結果を基にして、若年世代の職業を軸とした人生設計の構築に寄与するキャリア教育の在り方を検討し、持続可能な社会形成に向けて「全員活躍」を可能とするキャリア教育の設計を提案する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、若年世代のライフコース展望のメカニズムを実証的に明らかにすることを通して、これからの社会を担う若年世代の職業を軸とした人生設計の構築に寄与するキャリア教育の在り方を検討し、具体的な教育プランを提案する。学校教育におけるキャリア教育との関連に注目することは、教育現場に導入されてから15年近くが経過したキャリア教育の内容や方法を改めて評価することとなり、今後のキャリア教育の在り方を再考することにもつながる。また、本研究で得られた知見をもとに、教育プログラムを検討することは、とすれば形骸的な教育になってしまいがちなキャリア教育によって、これから訪れる少子高齢化社会において持続可能な社会の担い手としての人材育成を可能にすることになり、女性のみならず「全員活躍」することが可能な社会の実現に寄与することができる。

3. 研究の方法

全国の公立、私立の中学校、高等学校のキャリア教育に関わる教員に対するヒアリング調査から課題を析出し、「全員活躍」のために必要な視点を整理する。それを基にして、キャリア教育プログラムを設計し、教育現場で実践する。実践に際しては、教育効果を測定するべく、生徒たちに定期的に質問紙調査を行い、教育プログラムの課題を検討する。

4. 研究成果

(1) 中学校、高等学校のキャリア教育担当教員へのヒアリング結果

中学校、高等学校へのヒアリング調査から、都市部の学校と非都市部の学校における生徒たちのキャリアの考え方が異なっていることが明らかとなっていった。非都市部においては、地域社会そのものが少子高齢化によって弱体化していることもあり、若者の流出に歯止めをかけたい状況であることが明らかになった。それを受けて、学校教育としてのキャリア教育においても、地域社会と自分のキャリアを強く関連させて考えさせたいということから、ESD（持続可能な開発のための教育）とキャリア教育を組み合わせることで実施している事例がみられた。これを受けて、非都市部である離島地域の中学校における地域社会と連携したキャリア教育の取組に参加し、「総合的な学習の時間」向けの学習プログラム案を考案することとなった。

(2) キャリア教育プログラムの設計と実践

教育プログラムの内容については、研究協力校であった非都市部の離島の中学校でのヒアリング結果をもとにして、地域の持続可能性と自分自身の将来について同時に考えることができる内容とした。基本的には、2020年度より導入が進んでいる新学習指導要領の方針に基づいたものとしているが、中学校がSDGsに積極的に取り組む方針で学校運営をしていたことから、SDGsとも連携した内容を盛り込んだ。また、単発の授業だと、その場限りの効果となってしまう可能性があることから、3年間を通じた教育プログラムとしてコンテンツの開発を行った（表1）。コンテンツの開発にあたっては、地域研究、持続可能性研究の専門家のアドバイスを受けることで、専門性を担保した。

キャリア教育の観点からは、持続可能な地域社会と自分自身のキャリアの構築を目指すということで、2つの理論をベースにすることとした。1つは、児美川（2013）による、「やりたいこと」「できること」「やらなければいけないこと」を整理して生徒たちにキャリアを考えさせるというものである。生徒たちは将来と地域の両方に理想的な目標を設定し、自分のキャリアの中で地域とどのようにかわり、そのために今から何をすべきか、何ができるのかということを考えることができるような設計とした。もう1つは、「バックキャストリング」の考え方をを用いるということである。これは、理想的な将来の目標を設定し、その目標を達成するために何をすべきかを特定する考え方（石田・古川 2018）であり、児美川の理論と組み合わせることで、未来からのバックキャストリングで地域の未来と自分の将来を同時に考える方法を採用した。

本教育プログラムの資料については、専門家の意見をそのまま反映させると、中学生にはかなり難しい内容になってしまうため、中学生が理解できるように用語の説明、言葉遣い、図表の表現方法など、中学校の教員の意見なども参考にして、分かりやすいものを作成した。

作成した教育プログラムについては、新型コロナウイルスの影響で少々遅れてのスタートとなったが、2021年度の入学生から実施を開始し、2023年度に完成年度を迎えることとなった。

学習活動の過程	指導形態	時間	主な学習活動	学	時間	主な学習活動
1 ガイダンス	クラス	1	・授業のねらいと目標の提示 ・グループ分けとアイスブレイク(ゲーム等) ・スケジュールの確認	10	1	・2050年の〇〇の未来カルテの予測の説明 ・説明で分からなかったこと、知りたいことなどを書き出す
2 未来について考える①:バックキャスト思考	クラスグループ	1	・バックキャスト思考について学ぶ(例:小学校6年の教科書の利用等) ・日常の様々なテーマ(学校・家・社会)をバックキャストで考え、思考方法を身につける。	11	1	・前回の説明で分からなかったこと、知りたいことなどを宿題として調べてくる。 ・グループで気候変動を含めた2050年の地域の課題とその原因について話し合う。
3 未来について考える②:未来の自分について	クラス	1	・バックキャスト思考を用いて、未来の自分(なりたい自分、今の自分、このままの自分、これからの自分)について考える。	12	1	・個人による課題の書き出し、グループごとに模造紙へ展開、他のグループとの課題の共有。 ・グループに分かれ、地域課題の解決につながる今から取り組むべきアイデアについて話し合う。
4~5 〇〇地域の魅力・惜しいところ①~②	グループ	2	・学習課題「〇〇地域の魅力・惜しいところ」をできる限り考えてくる ・授業で「魅力ができるだけ消さずに惜しいところを改善するためのアイデアについて」グループワークを行う ・グループ討議の結果をクラス内で発表する	13	1	・ワークショップの振り返り ・地域のために自分ができていることを考える
6 SDGsと私	クラス	1	・SDGsについて学ぶ ・世界や日本、地域の現状と未来と自分たちの関わりについて学ぶ	14~17	4	・未来を変える仕組みを考えよう ・調べ方、まとめ方、発表の仕方 ・政策案の詳細検討 ・プレゼンテーションの準備(ポスター・スライドの作成等) ・各グループで考えた政策をプレゼンテーションする
7~8 地球温暖化(1)(2)	クラス	2	・地球温暖化(1)の概要を知る ・自分自身と温暖化の関係を知る ・日本や〇〇地域への影響を知る ・温室効果ガスを減らすことを目指すゲームを通じて、温暖化対策を実感する	18	1	・参加者(自治体関係者、地域の関連団体、保護者等)からの講評 ・単元全体の振り返り
9 未来について考える③:未来の社会・地域について	グループ	1	・バックキャスト思考の復習。具体的な社会的な問題にバックキャスト思考を取り入れる。 ・持続可能な社会の実現に向けて自分たちができることをバックキャスト思考で考える	19	1	

バックキャスト思考の考え方をういて自分のキャリアを考える

世界の現状、日本の現状、地域の現状を踏まえて自分たちの未来とのかわり考える

図1 作成したキャリア教育プログラム

(3) 教育効果の測定

地域課題解決型キャリア教育プログラムの実施前、実施後、半年後における知識・技能、思考力、判断力、表現力等の変化を測定し、教育プログラムの最終版に向けての改善点の洗い出しを行った。この研究成果を受けて、教育プログラムの改善を行い、3年間の教育プログラムを完成させ、2021年度より離島地域の中学校の協力の下、正課(総合的な学習の時間)に組み込む形で実装した。2021年度入学生が2023年3月に卒業するまで、3年間6時点において、3年間の知識・技能、思考・判断・表現、地域への意識、キャリア意識の変化を測定したところ、それぞれの項目において、ポジティブな回答が増加し、3年間を通じて定着する傾向が確認された。このことから、単発のキャリア教育プログラムではなく、正課の授業内での継続的な教育プログラムとして設計することで、一定の定着がみられることがデータから明らかになった(図2)。

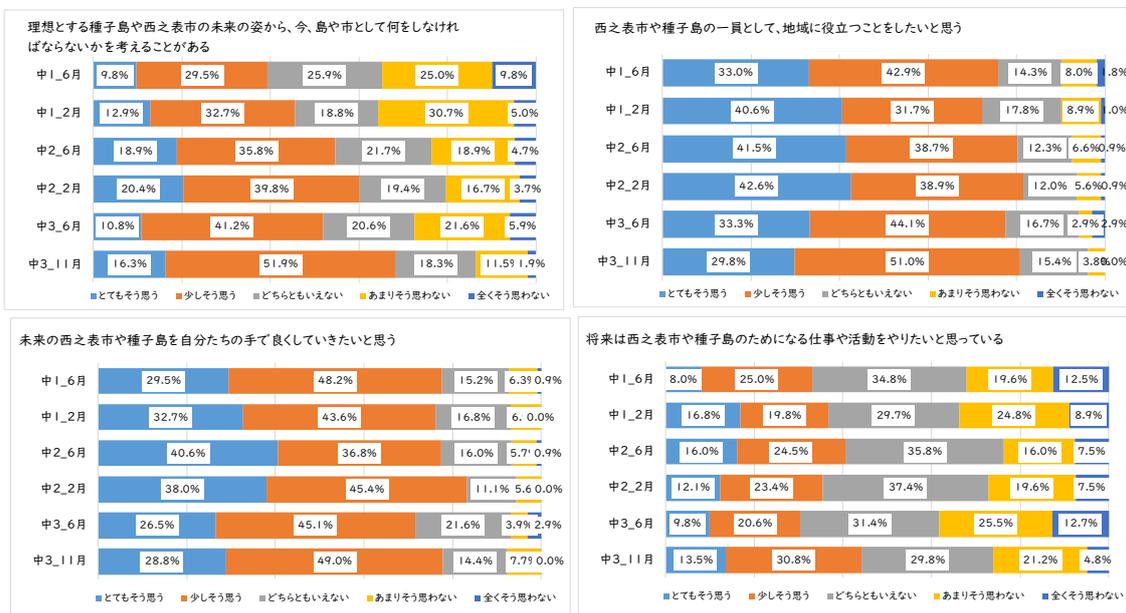


図2 教育効果の測定結果(抜粋)

(4) 今後の課題と展開

今回の研究の課題としては、条件の異なる学校での実践には至らなかったことである。人口や地理的環境、社会構成の異なる地域の学校での実践を通して、さらなる「全員活躍社会」に寄与するキャリア教育プログラムの構築を試みていきたい。

また、昨年度、開発した中学校における「総合的な学習の時間」向けの「地域課題解決型キャリア教育」の学習プログラムの教育実践を実施した。教育実践にあたっては、中学校教員へのヒアリングを繰り返し行い、より教育現場の実情に合わせたプログラム開発となるように調整を行った。その中で、中学校側から、中学校の教員向けの研修として、当プログラムを実践することの目的、意義、教育効果についての説明を行ってほしいという要望があり、教育プログラム開発と併行して、教員向けの教員研修プログラムも開発することとなった。本件は、継続中の案件のため、今後の研究の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Rumi Yatagawa, Hideaki Kurishima	4. 巻 2023
2. 論文標題 Development of Career Education Program for Sustainable Community on a Remote Island in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Hawaii International Conference on Education 2023 Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 815-820
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷田川ルミ、栗島英明	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 学校教育における ESD の実施状況と教員の意識 中学校、高等学校に対する全国調査の結果から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 公共研究	6. 最初と最後の頁 81-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/S18814859-18-1-P81	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷田川ルミ、栗島英明	4. 巻 24
2. 論文標題 学習指導要領における持続可能な開発のための教育の位置づけと今後の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地球環境	6. 最初と最後の頁 137-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Rumi Yatagawa, Hideaki Kurishima
2. 発表標題 Development of Career Education Program for Sustainable Community on a Remote Island in Japan
3. 学会等名 Hawaii International Conference on Education（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷田川ルミ、栗島英明
2. 発表標題 持続可能な地域社会を実現するキャリア教育プログラムの開発 - 離島 の中学校における教育実践と効果検証 -
3. 学会等名 日本キャリア教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷田川ルミ、栗島英明
2. 発表標題 未来ワークショップを中心とした「総合的な学 習 / 探究の時間」プログラムの教育効果の検証 - 鹿児島県種子島の中学校、高等学校での取り 組み
3. 学会等名 日本環境教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rumi YATAGAWA, Hideaki KURISHIMA, Hidefumi KURASAKA, FumihikoMIYAZAKI
2. 発表標題 Development of an educational program for sustainable community on a remote island in Japan
3. 学会等名 World Environmental Education Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

地域人材育成・キャリア教育ラボ
<https://sit-kurumi-lab.org/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------